

これからの 公共施設 の在り方を考える



市の道路や建物などの公共施設は、その多くが今から30年～40年前に整備されています。そのため、今後一斉に老朽化が進み、施設の更新や維持保全の費用が集中することが見込まれています。今月は「公共施設の在り方」について考えましょう。

莫大な更新費用

市が現在保有する建物の全てを更新しようとする、今後50年で152.9億円、1年当たりおよそ31億円が必要となり、さらに道路などのインフラを加えると、1年当たりおよそ45億円が必要になると試算をしています。

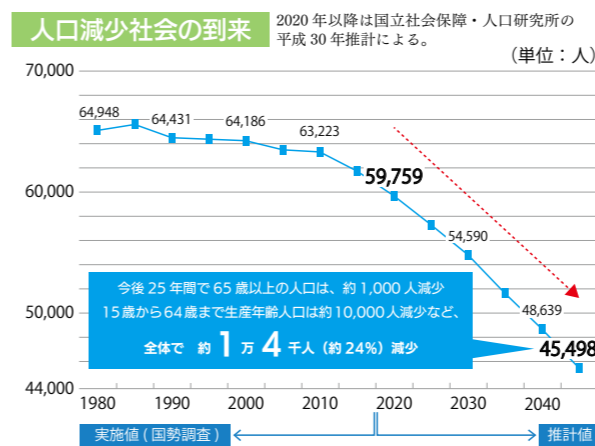
今後は人口減による税収の減少や社会保障費の増加がますます進むと考えられるため、これまでと同様に公共施設を保有し、整備や管理をすることは不可能な状況となってきました。

公共施設マネジメント

このような状況の中、市では保有する公共施設を総合的に把握し、効率的に管理し、活用していく「公共施設マネジメント」に取り組んでいます。

平成28年度に策定した「日向市公共施設等総合管理計画」では、今後30年間の公共施設マネジメントの基本目標として「安全・安心の確保」「総量の最適化」「ライフサイクルコストの縮減」の3原則を定め、その中で建物の総延床面積の3割削減を数値目標として、特に老朽化が進んでいる施設の統合、廃止、見直しなどを順次検討しています。

更新、維持保全等を計画的に行うことで、財政負担の軽減・平準化を図りながら市民ニーズに対応した、将来世代に負担を残さない最適な公共施設の保有とサービスの提供を目指していきます。



現在の主な取り組み

老朽化した施設をそのまま建て替えるのではなく、同じく古くなった施設と一緒に機能を集約する施設の複合化や使われていない施設の貸し出し・売却など施設を有効活用する取り組みを行っています。

①施設の複合化

現在建て替え中の細島小学校では、細島小学校の中に細島公民館、細島地区コミュニティセンターの機能を複合化しています。これにより、効率的な施設の利用や今後の建物の維持管理コストを減らすなどのメリットがあります。

②施設の利活用

閉校して使われなくなった学校施設の活用例として、旧幸脇小学校では、平成30年5月から「株式会社テレネット」がコールセンター事業を行っているほか、昨年10月からは、旧坪谷中学校を「ひなた原木椎茸株式会社」へ貸し出しています。

施設がある地域の皆さんと協議しながら活用を進めており、地域の雇用創出をはじめとした相乗効果も見込まれます。

学校以外の施設では、倉庫として利用していた旧農村シルバーセンターを昨年6月に東郷町商工会へ売却しました。

将来のために

その他の使われていない施設についても、順次その有効活用や売却に向けて取り組みを進めています。

公共施設マネジメントを進めていくうえで、一部の市民の皆さんにはどうしても今までに比べて不便な思いをしていただくことが避けられません。

今後の人口減少をはじめ、厳しい財政状況の中、市民サービスを継続していくために、市民の皆さんと一緒に考えながら取り組みを進めていきますので、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

①施設の複合化



細島小学校の建て替えでは、細島公民館、細島地区コミュニティセンターの機能を複合化。

②施設の利活用



旧幸脇小学校では、校舎を利用し「株」テレネット」がコールセンター事業を実施。



昨年10月から、旧坪谷中学校を「ひなた原木椎茸(株)」へ貸し出し。

皆様のご意見をお聞かせください。

将来に負担を残さないためにも公共施設マネジメントは大切な取り組みです。市では、これからも情報提供に努めながら皆さんと一緒に考えていきます。随時、ご意見を受け付けています(メール可)。



資産経営課公共施設マネジメント係 ☎66・1013 ✉shisankeiei@hyugacity.jp

日向市公共施設等総合管理計画

基本理念

将来世代に負担を残さない
最適な公共施設の保有とサービスの提供



日向市公共施設等
総合管理計画

基本目標 公共施設マネジメント3原則

1. 安全・安心の確保
点検・診断の実施、耐震化に取り組めます。
2. 総量の最適化
有効活用、統合、廃止などを推進します。
3. ライフサイクルコストの縮減
長寿命化、維持管理方法の見直し、公民連携に取り組めます。